

## 平成29年度老人保健健康増進等事業

### 訪問・通所リハビリテーションのデータ収集システムの活用に関する調査研究事業

公立大学法人 埼玉県立大学

本事業では、リハビリテーション（以下、リハ）及びリハマネジメントの質の評価とその改善に向け、平成29年度から厚生労働省が試行的運用を開始している通所・訪問リハビリテーションのデータ収集システム（以下、「VISIT」）について、データ分析方法、フィードバック方法、追加すべき項目等について、有識者の意見を踏まえながら検討・提案した。

#### 1. VISITデータの分析手法の開発、事業所へのフィードバック方法の検討・提案

分析結果の活用の目的を踏まえ、全国／事業所／利用者ベースのそれぞれについて分析手法・フィードバック方法を検討した。

- 1) 利用者ベースのデータ分析として、ADLやIADLの変化についてVISITを通して収集したデータから算出した全国平均値を参考にリハ職のケアの振り返り等を実施可能な帳票（案）（リハビリテーションサービス状況）やマネジメントの思考過程に沿って項目を整理した帳票（案）（リハビリテーションマネジメントサマリー）を開発し、データ分析結果の利用者へのフィードバック方法として提案した。
- 2) 全国ベースのデータ分析として、生活課題に応じた効果的なリハ及びリハマネジメントの標準化に繋げるため、利用者の興味・関心領域、利用者特性、リハ提供方法、リハマネジメント方法、リハ／リハマネジメントの効果等を分析することを提案した。
- 3) 事業所ベースの分析として、全国ベースの分析結果を事業所別に比較する際に考慮すべき分析軸について、利用者の平均要介護度、平均利用期間等のほか、加算（リハビリテーションマネジメント加算等）の算定状況、事業所所在地の地域特性（人口規模、人口密度等）、リハ職の配置状況、利用者の規模等を提案した。

#### 2. 既存帳票に加えるべき項目の検討・提案

1. の分析手法・フィードバック方法において必要と考えられた項目のうち、VISITを通して収集できない項目の整理と介護保険総合データベース等のデータベースとの連携による収集・分析可能性について検討した。

所在地、職員数、加算等の事業所情報、利用者のサービス利用状況（種類・量）については既存のデータベースやシステム等から収集可能であり、分析に活用できると考えられた。一方、利用者の満足度、栄養状態や疾患の状況、生活環境・居住環境等については、新たに収集する方法の検討が必要であることが明らかとなった。

平成30年度の介護報酬改定では、VISITへのデータ提出に係る評価が新設された。本事業における検討、提案を踏まえ、今後、VISITを通して収集されたデータを用いた試行的分析を通じて、分析方法及び効果的なフィードバック内容の改善を図るとともに、改良された手法がVISITに実装されることを期待したい。